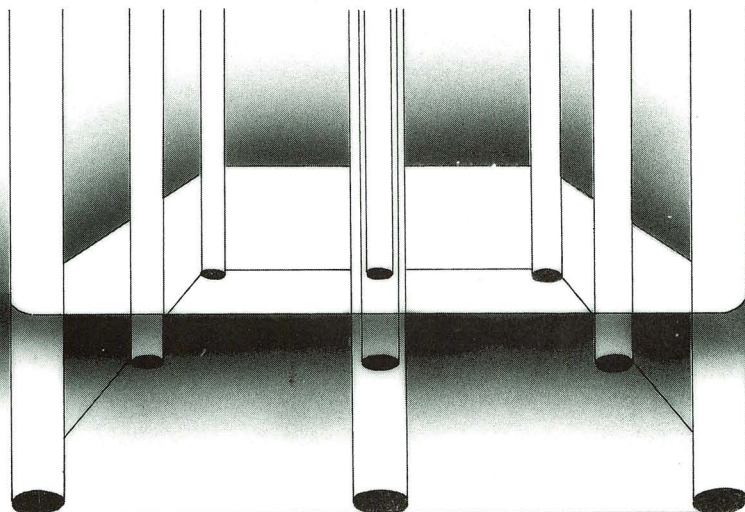




ISHIHARADAKITA-SITE

石原田北遺跡

長坂ショッピングセンター(仮称)建設にともなう埋蔵文化財発掘調査



1999.3

石原田北遺跡調査団

長坂町教育委員会

山梨県長坂町

石原田北遺跡

長坂ショッピングセンター(仮称)建設にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999.3

石原田北遺跡調査団

長坂町教育委員会

序

長坂町は八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、緩やかな南向きの斜面に広がる町です。ここには、古くははるか数万年前から遺跡が200ヶ所以上発見され、私たちの遠い先人たちの確かな歩みを現在に伝えております。

このたび、長坂町大八田地内に有限会社エヌアイシーによるショッピングセンター建設にともない、周知の埋蔵文化財包蔵地である石原田北遺跡の発掘調査を実施しました。その結果、縄文時代前期の遺物、平安時代の竪穴住居址、中世の竪穴遺構など多様な考古学成果を得ました。これらの遺物や遺構は、隣接する柳坪遺跡や小屋敷遺跡さらに小和田館跡などの縄文時代と平安時代・中世からなる遺跡群とのつながりを考えていく上でも有意義な資料になると思われます。本書が広く、教育や研究の場で活用されることを望みます。

最後になりましたが、調査にあたりご指導、ご協力をいただいた関係機関、地元の皆様、そして埋蔵文化財調査への多大なご理解を賜りました有限会社エヌアイシーの皆様には深く感謝申し上げます。

1999年3月

石原田北遺跡調査団

団長 小 松 清 寿

例 言

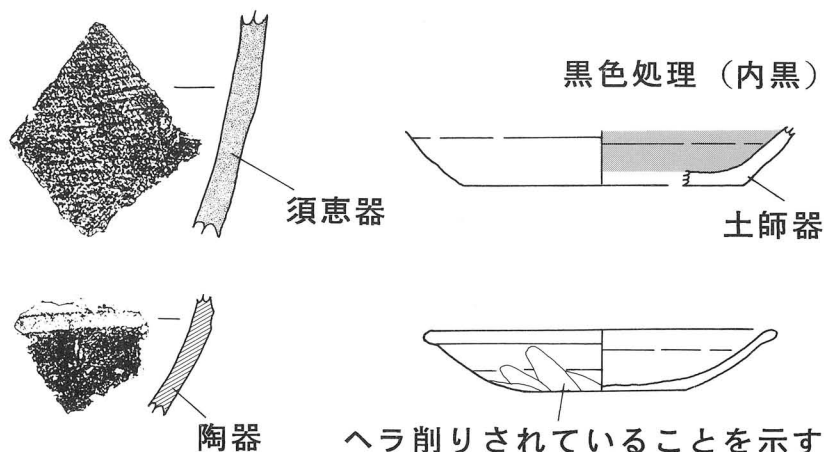
- 1 本書は、山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田に所在する石原田北遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、有限会社エヌアイシーの店舗建設工事にともない実施した。
- 3 発掘調査は有限会社エヌアイシーと長坂町教育委員会とにより、石原北遺跡調査団を組織して行われた。

調査団組織

- 団 長 小松 清寿（長坂町教育委員会教育長）
副 団 長 植松 忠（長坂町教育委員会教育課長）
副 団 長 小尾 康仁（有限会社エヌアイシー代表取締役）
事務局 長 興石 君夫（長坂町教育委員会教育係長）
事務局 員 白倉はるみ（長坂町教育委員会職員）
主任調査員 小宮山 隆（長坂町教育委員会学芸員）
- 4 本書の編集ならびに執筆は小宮山隆が行った。
 - 5 遺物実測・図面作成・トレース・図面整理等に関わる業務は、吉田光雄（調査補助員）、石川昭江、井出仁美、小林広美、橋本はるみ、日向登茂子、山本理奈（整理作業員）が行った。
 - 6 出土品および図面・写真は長坂町教育委員会が保管している。
 - 7 発掘調査から本書作成までの間、次の諸氏からご助言、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい。

（順不同、敬称略）

小野正文・保坂康夫・出月洋文・中山誠二・森原明廣（以上、山梨県教育庁学術文化財課）、山下孝司（韮崎市教育委員会）、平野修（山梨文化財研究所）、山下大輔（信州大学教育学部）、渡辺泰彦（大泉村教育委員会）、北巨摩市町村文化財担当者会



石原田北遺跡

Contents

もくじ

本文

序

例言

第 1 章 調査の経過 10

1 調査の経緯 10

2 調査の概要 10

3 調査組織 10

第 2 章 遺跡をとりまく環境 11

1 自然環境 11

2 長坂町内の遺跡分布 12

第 3 章 検出された遺構と遺物 16

1 竪穴住居址 16

2 竪穴建物址 16

3 掘立柱建物址 17

4 遺物 17

第 4 章 調査のまとめ 26

挿図・表

写真図版

図 1	長坂町の遺跡分布	8
図 2	基本層序	11
図 3	石原田北遺跡の位置と周辺遺跡分布図	13
図 4	石原田北遺跡調査区位置図	14
図 5	石原田北遺跡全体図	15
図 6	1号住居址実測図	20
図 7	2号竪穴建物址実測図	21
図 8	3号竪穴建物址実測図	21
図 9	4号竪穴建物址実測図	22
図10	5号竪穴建物址実測図	22
図11	一括出土遺物[1/3]	23
図12	1号住居址出土遺物(1)[1/3]	23
図13	1号住居址出土遺物(2)[1/3]	24
図14	4号竪穴建物址出土遺物[1/3]	25
図15	B-2出土遺物[1/3]	25
図16	C-2出土遺物[1/3]	25
図17	一括出土遺物[1/3]	25
図18	一括出土石器	26

図版 1	石原田北遺跡全景	28
図版 2	調査風景	28
図版 3	1号住居址	28
図版 4	1号住居址	29
図版 5	1号住居カマド	29
図版 6	1号住居出土土器	29
図版 7	2号竪穴建物址	30
図版 8	3号竪穴建物址	30
図版 9	4号竪穴建物址	31
図版10	5号竪穴建物址	31

表 1	長坂町の遺跡分布一覧	9
表 2	遺構外遺物観察表	17
表 3	1号住居址遺物観察表	18
表 4	4号住居址遺物観察表	18
表 5	B-2遺物観察表	18
表 6	C-2遺物観察表	19
表 7	遺構外遺物観察表	19
表 8	遺構外石器観察表	19
表 9	小和田遺跡D地区竪穴建物主要属性表	27

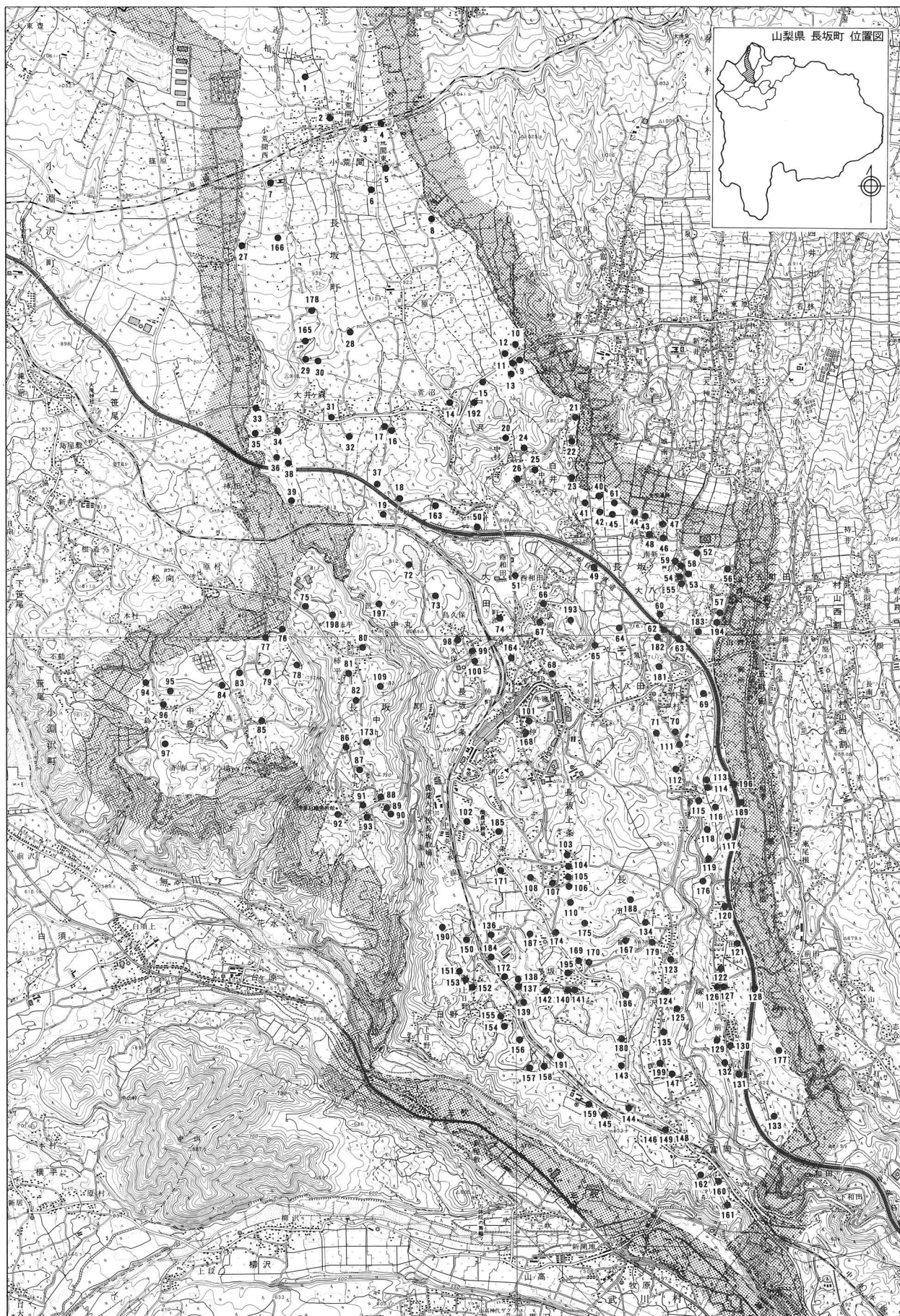


図1 長坂町の遺跡分布図

表1 長坂町の遺跡分布一覧

(縄=縄文時代 弥=弥生時代 古=古墳時代 平=平安時代 中=中世)

001	耳塚 中	070	石原田南遺跡 縄 平 中	139	新居遺跡 縄
002	法性寺前遺跡 縄 中	071	塚原遺跡 縄 平	140	相吉氏屋敷跡 中
003	信玄原遺跡 縄	072	越中久保遺跡 縄 平	141	相吉遺跡 中
004	小荒間古戦場跡	073	久保遺跡 縄	142	上松氏屋敷跡 平
005	桜畑遺跡 近	074	房屋敷遺跡 縄	143	下屋敷遺跡 縄
006	小泉遺跡 近	075	池の平遺跡 縄	144	清水頭遺跡 縄 古 平
007	菅間遺跡 縄	076	東蕪遺跡3 平	145	向原遺跡 平
008	桜畑南遺跡 縄	077	東蕪遺跡2 平	146	三つ墓古墳2 消滅
009	糺屋敷東遺跡 縄	078	東蕪遺跡4 縄 平	147	原町農業高校前遺跡 縄
010	糺屋敷北遺跡 縄	079	東蕪遺跡1 縄 平	148	三つ墓古墳3 消滅
011	糺屋敷遺跡 縄	080	和手山東遺跡 中	149	三つ墓古墳1 古
012	牛久保遺跡 縄 弥	081	小尾平遺跡 旧石 縄	150	池之平昭和堤北遺跡 縄
013	牛久保南遺跡 縄	082	間の原遺跡 縄	151	池之平A遺跡 縄 平
014	沢入遺跡 縄 中	083	西蕪東遺跡 平	152	向井丹下屋敷跡 中
015	宇干平遺跡 縄 中	084	西蕪遺跡 縄	153	池之平B遺跡 縄
016	東下屋敷遺跡 縄	085	西蕪南遺跡 縄 平	154	上日野遺跡 縄 平
017	西下屋敷遺跡 縄	086	和手遺跡 縄 平	155	田中氏屋敷跡 中
018	新田森遺跡 縄	087	腰巻遺跡 縄	156	上日野A遺跡 縄 平
019	西下屋敷南遺跡 縄	088	城山上北遺跡 縄 平	157	上日野B遺跡 縄 平
020	横手遺跡 縄 中	089	城山上遺跡 縄	158	上日野C遺跡 縄 平
021	神之原遺跡 縄	090	中丸城跡 中	159	姥久保遺跡 平 中
022	屋敷附遺跡 縄 中	091	居久保遺跡 縄 平	160	日野原遺跡 平
023	内城遺跡 中	092	青春白樺美術館南遺跡 縄	161	上日野原遺跡 縄 平
024	十郎林遺跡 縄	093	細久保遺跡 縄	162	富岡遺跡 近
025	阿原遺跡 平	094	後平遺跡 縄 平	163	横針遺跡 弥 古
026	中尾根遺跡 縄	095	狐平北遺跡 縄 平	164	大林遺跡 縄
027	手白尾遺跡 縄	096	狐平遺跡 縄 平	165	中込遺跡 縄
028	夫婦石遺跡 縄	097	大平遺跡 縄 平	166	手白尾東遺跡 縄
029	横山1遺跡 縄	098	下鳥久保遺跡 縄	167	西屋敷遺跡 古
030	横山2遺跡 縄	099	鳥久保遺跡 縄	168	上町南遺跡 縄
031	横山平南遺跡 縄 平	100	高松遺跡 縄	169	龍角西遺跡 縄 古 平
032	葛原北遺跡 縄 平	101	上町遺跡 縄 平	170	龍角遺跡 古 平
033	上フノリ平北遺跡 縄	102	酒呑場遺跡 縄 古 平	171	長坂上条遺跡 縄 平
034	上フノリ平遺跡 縄	103	東村A遺跡 縄 平	172	西久保遺跡 縄
035	上フノリ平西遺跡 縄	104	東村B遺跡 古 平	173	新宿区健康村遺跡 縄 平
036	下フノリ平北遺跡 縄	105	中村遺跡 古 平	174	長坂下条・藤塚
037	葛原遺跡 縄 弥	106	錨田遺跡 平	175	和田遺跡 弥 平
038	下フノリ平遺跡 縄 中	107	西村遺跡 古 平	176	古屋敷遺跡 縄
039	下フノリ平南遺跡 平	108	中反遺跡 縄 平	177	泥里遺跡 縄
040	別当遺跡 縄	109	中丸・藤塚	178	中込北遺跡 縄
041	別当西遺跡 縄	110	長坂氏屋敷跡 中	179	渋沢 上町遺跡 縄
042	別当十三塚	111	白山神社前遺跡 平	180	下屋敷北遺跡 縄 平
043	南新居北遺跡 中	112	上ノ屋敷遺跡 縄 平	181	柳坪南遺跡 平
044	深草館跡	113	大々神十三塚 中	182	柳坪北遺跡 縄 弥 平
045	小和田遺跡 縄 平	114	大々神A遺跡 平	183	境原遺跡 弥 平
046	南新居屋敷跡	115	大々神B遺跡 古 平	184	北村北遺跡 縄 弥 平
047	南新居遺跡 平	116	治郎田遺跡 古 平	185	酒呑場東遺跡 縄 弥 平
048	南新居西遺跡 平	117	頭無A遺跡 平	186	山本遺跡 縄
049	小和田館跡	118	榎木遺跡 弥 古	187	北村東遺跡 縄 古
050	米山遺跡 旧石 縄	119	塚川・柳坪遺跡 縄	188	大久保北遺跡 縄 中
051	米山東遺跡 平	120	頭無遺跡(二本木遺跡) 縄 古	189	天王塚古墳 古
052	塚田遺跡 平	121	新田遺跡 縄	190	池之平北遺跡 縄 平
053	窪田遺跡 縄 古 平	122	塚之越遺跡 中	191	清水頭北遺跡 縄 平
054	弥右衛門塚1	123	原町北遺跡 平 中	192	宇干平の土塁
055	弥右衛門塚2	124	原町遺跡 平	193	成岡・藤塚
056	渋田北遺跡 平	125	上久通北遺跡 縄 平	194	馬越場遺跡
057	渋田遺跡 平	126	塚川の土塁 中	195	紺屋遺跡 縄 平
058	東原の土塁	127	下村遺跡	196	治郎田北遺跡 縄
059	東原遺跡 中	128	塚川十三塚群	197	竹原遺跡 縄
060	柳新居遺跡 縄 古 平	129	宮久保遺跡 縄	198	天白城址 中
061	原田遺跡 縄 平	130	下村南遺跡 縄	199	下原遺跡 縄
062	柳坪A遺跡 縄 古 平	131	泥里西遺跡 縄 平		
063	柳坪B遺跡 縄 古 平	132	勝見遺跡 縄 平		
064	小屋敷遺跡 縄 平	133	競馬場遺跡 縄 平		
065	久保地遺跡 縄	134	寺前遺跡 縄 平 中		
066	成岡遺跡 縄 弥 平	135	上久通遺跡 縄		
067	成岡新田遺跡 弥 平	136	反田遺跡 縄 平 中		
068	曲田遺跡 平	137	三井氏屋敷跡 中		
069●	石原田北遺跡 縄 平	138	北村遺跡 弥 古		

第1章 調査の経過

1 調査の経緯

1996年4月に有限会社エヌアイシー（以下、N I Cとする）から、北巨摩郡長坂町大八田地内の店舗建設にあたっての埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。町教育委員会では、約9,000㎡におよぶ建設予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である石原田北遺跡の範囲内であることを確認した。同年4月30日付けでN I Cから文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の届出があり、町教育委員会が試掘確認調査を実施した結果、開発予定地東側の約1,500㎡で遺構と遺物包含層が確認され工事計画上遺跡の保存が困難なため、N I Cおよび県教育委員会と協議した結果、町教育委員会とN I Cとで石原田北遺跡調査団（以下、調査団とする）を結成して、文化財保護法に基づき本調査を実施することになった。調査団は団長を町教育長として、事務局を町教育委員会におくこととした。1996年9月2日付けで文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘調査の通知を行い、調査体制の整備をはかるとともに、同年9月26日に委託者N I C、受託者調査団長、立会人長坂町長として、石原田北遺跡発掘調査委託についての委託契約を締結した。調査は1996年10月から実施し、1998年10月に完了した。出土遺物や図面の整理作業もこれに並行して行った。1998年10月22日付けで県教育長あてに埋蔵文化財の発掘調査終了の報告を行った。

2 調査の概要

石原田北遺跡は今回の調査区より南側の畑に遺物分布の中心があり、今日でも多量の縄文土器片を採集することができる。一方、本調査区の位置は当初において遺物の表面採集がほとんどできない地点だったため、遺構の密度も低調であることを予測していた。しかし、調査の結果、平安時代の住居址1件、中世と思われる竪穴建物址3基、掘立柱建物址3基以上などの遺構が確認された。また、縄文時代前期後葉の土器片、縄文時代の石器類、平安時代の土師器片など多様な遺物が検出された。

3 調査組織

石原田北遺跡調査団

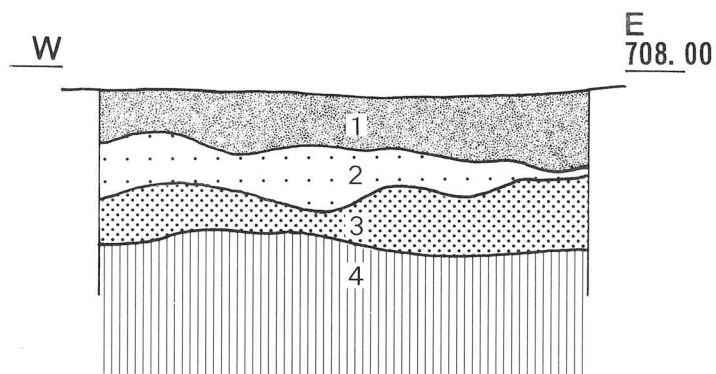
団 長	小松 清寿（長坂町教育委員会教育長）
副 団 長	植松 忠（長坂町教育委員会教育課長）
副 団 長	小尾 康仁（有限会社エヌアイシー代表取締役）
事 務 局 長	興石 君夫（長坂町教育委員会教育係長）
事 務 局 員	白倉はるみ（長坂町教育委員会副主幹）
主任調査員	小宮山 隆（長坂町教育委員会学芸員）

第2章 遺跡をとりまく環境

1 自然環境

石原田北遺跡は北緯35度49分45秒、東経138度23分40秒、標高707m付近に位置する。現在の中央自動車道長坂インターチェンジ付近にかつてあった小高い尾根があり、これが南に向かって次第に低位になる尾根上の南東緩斜面に遺跡は立地する。遺跡の立地するこれらの尾根は、第四紀火山の崩壊としては日本列島で最大規模といわれる韮崎岩屑流によって形成された八ヶ岳南麓緩斜面を、塩川の支流である鳩川や泉川といった中小河川にわずかに浸食されてできたもので、本遺跡が立地する標高700m付近を境にして、より下流域では浸食力が増大し河岸段丘が発達する。つまり本遺跡は、起伏の小さい八ヶ岳南麓緩斜面が、次第に河川浸食による段丘の発達しはじめる変換点に位置する。

遺跡の立地する尾根上は主に高原野菜を生産する畑や水田に、低位面はほぼ全面で水田化されている。遺跡周辺の気候は典型的な内陸型気候であり、気温の日較差・年較差が大きく、年間降水量はおよそ1,100mmと少ない。高海拔の割に冬季の積雪量は少ないが、多い年では年に数回、30～40cmの積雪量が観測される。



- 1 明黄褐色土層(1) 表土
- 2 明黄褐色土層(2) 包含層
- 3 明黄褐色土層(3) 包含層
- 4 明黄褐色土層(4) ローム



図2 基本層序

2 長坂町内の遺跡分布

石原田北遺跡の周囲には高密度に遺跡が分布し、発掘調査された遺跡も数多い。すぐ北側に隣接する柳坪遺跡では縄文時代中期後半を主とした集落遺跡が確認された¹⁾。柳新居遺跡では、縄文時代中期前半の住居址が数件確認された。県営圃場整備事業にともない調査された別当西遺跡²⁾や大八田原田遺跡³⁾では、縄文時代後期の集落跡が確認された。柳坪遺跡では弥生時代中期の住居址も確認された。境原遺跡でも弥生後期の住居址が確認されている。古墳時代では柳坪遺跡で前期の住居址がある。平安時代の遺跡調査例は多数あり、南新居西遺跡⁴⁾、小和田館跡⁵⁾、大八田原田遺跡、柳坪遺跡、柳坪南遺跡、境原遺跡が挙げられる。中世では、国人領主層の居館とそれを取りまく集落が確認された小和田遺跡や、堀と土塁が良好に遺存する県指定文化財の深草館がある。

註

¹⁾ 山梨県教育委員会1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書一北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内』

山梨県教育委員会1986『柳坪遺跡』

²⁾ 長坂町教育委員会1987『深草遺跡 別当十三塚遺跡 別当遺跡（第2次）糺屋敷遺跡』

長坂町教育委員会1997『別当西遺跡』

³⁾ 長坂町教育委員会1989『大八田原田遺跡』

⁴⁾ 長坂町教育委員会1991『南新居西遺跡』

⁵⁾ 長坂町教育委員会1985『小和田館跡』

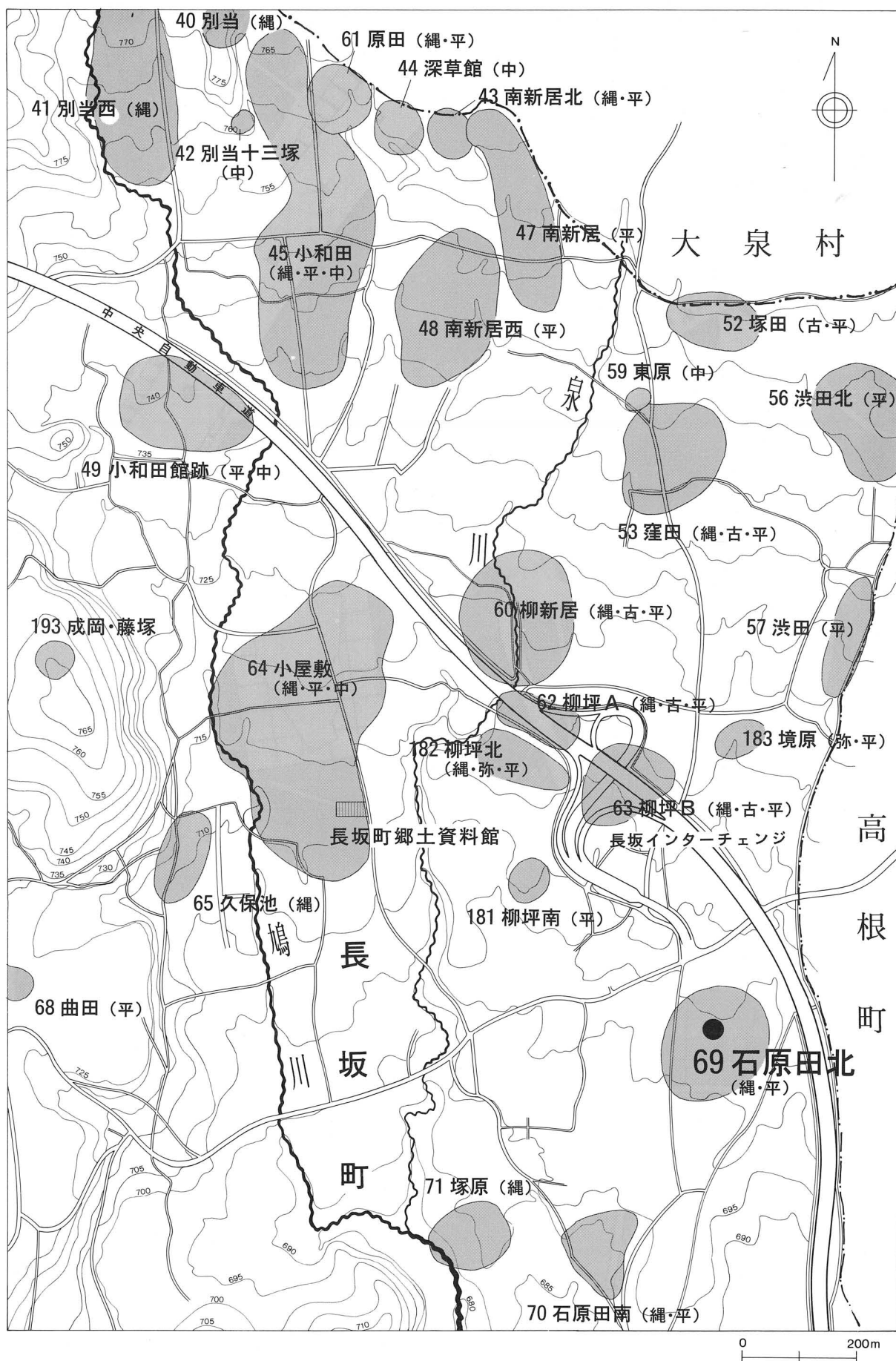


図3 石原田北遺跡の位置と周辺遺跡分布図



图4 石原田北遺跡調査区位置図

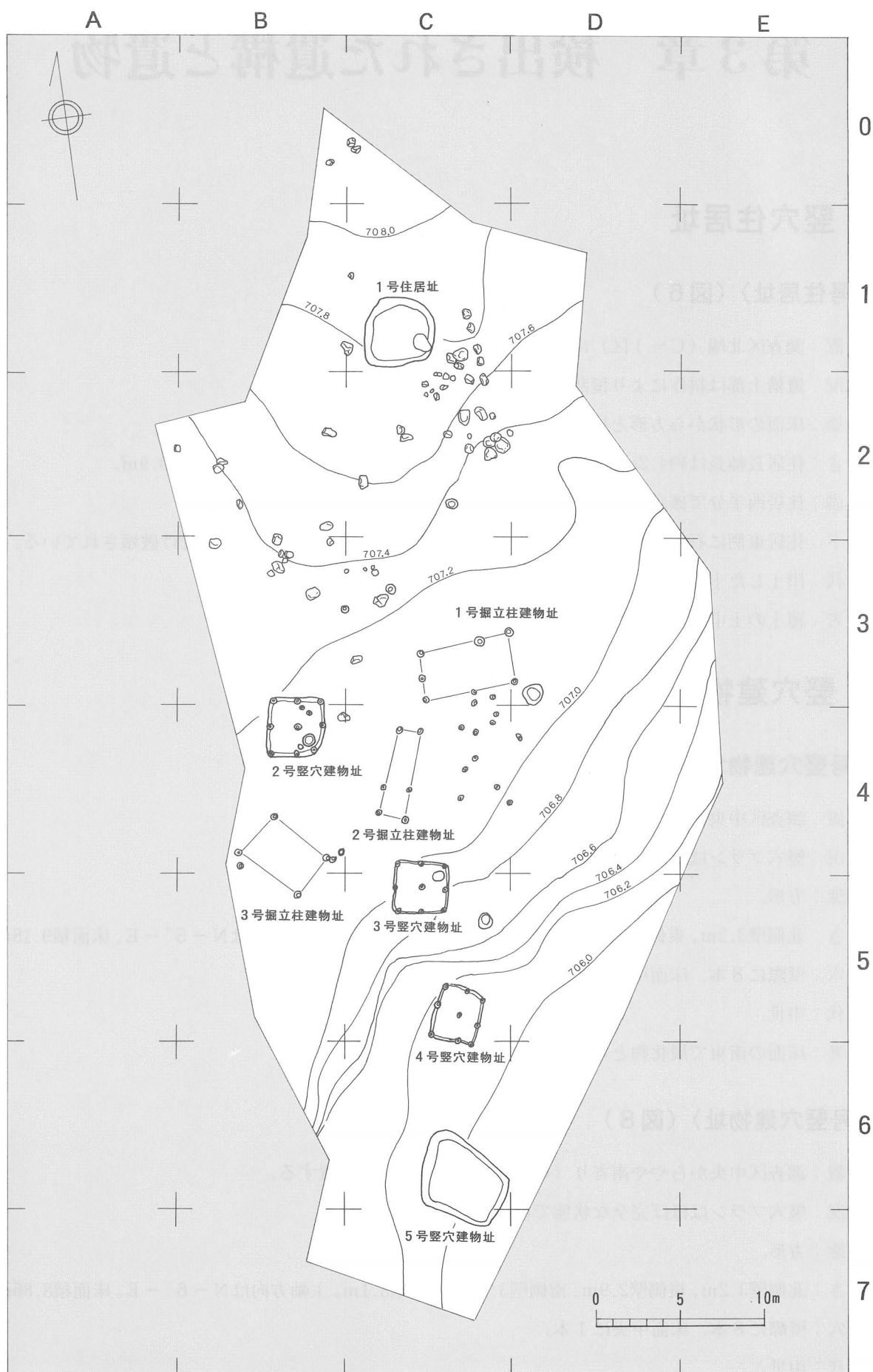


图5 石原田北遺跡全体図

第3章 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居址

〈1号住居址〉(図6)

位置：調査区北端（C-1区）に位置する。

検出状況：遺構上部は耕作により攪乱を受けている。

平面形態：床面の形状から方形と推測される。

大きさ：住居長軸長は約4.2m、短軸長は4.0m。長軸方向はE-15°-S。床面積9.9㎡。

周溝：住居西半分で確認される。

カマド：住居東側に石組みのカマドがあり、焼土が堆積する。カマドは攪乱を受け破壊されている。

時代：出土した土師器から10世紀中～後葉段階と思われる。

備考：覆土の上中層には大型の礫が混入する。

2 竪穴建物址（1号は欠番）

〈2号竪穴建物址〉(図7)

位置：調査区中央西寄り（B-3、B-4区）に位置する。

検出状況：竪穴プランはほぼ完全な状態で検出。

平面形態：方形。

大きさ：北側壁3.2m、東側壁3.1m、南側壁3.2m、西側壁3.4m。主軸方向はN-5°-E。床面積9.18㎡。

柱穴：壁際に8本、床面中央に1本。

時代：中世。

備考：床面の南東で炭化物と焼土確認。

〈3号竪穴建物址〉(図8)

位置：調査区中央からやや南寄り（C-4、C-5区）に位置する。

検出状況：竪穴プランはほぼ完全な状態で検出。

平面形態：方形。

大きさ：北側壁3.2m、東側壁2.9m、南側壁3.1m、西側壁3.1m。主軸方向はN-6°-E。床面積8.86㎡。

柱穴：壁際に8本、床面中央に1本。

時代：中世。

備考：床面の北東に浅い掘り込みがあり焼土が確認された。床面南東に炭化物が広がる。

〈4号竪穴建物址〉(図9)

位 置：調査区南寄り（C－5区）に位置する。

検出状況：竪穴プランはほぼ完全な状態で検出。

平面形態：方形。

大 き さ：北側壁（3.0m）、東側壁（3.0m）、南側壁2.8m、西側壁3.0m。主軸方向はN－26°－W。床面積7.4㎡（推定）。

柱 穴：壁際に8本、床面中央に1本。

時 代：中世。

備 考：床面の南東に浅い掘り込みがあり、その北側に炭化物が確認された。

〈5号竪穴建物址〉(図10)

位 置：調査区南端（C－6、C－7区）に位置する。

検出状況：遺構上部は耕作により攪乱を受けている。

平面形態：台形。

大 き さ：長軸長5.2m、短軸長4.3m。

柱 穴：なし。

時 代：不明。

3 掘立柱建物址（図5全体図）

調査区中央にピット群があり、このうち掘立柱建物址と推測される柱穴配列はC－3区（1号掘立柱建物址）、C－4区（2号掘立柱建物址）、B－4およびB－5区（3号掘立柱建物址）の3基である。

4 遺 物

表2 遺構外遺物観察表（図11）

番号	種 類	器形	大 き さ (cm)			胎 土	色調 (内面) (外面)	調 整	釉 薬	特徴	残存率
			器高	口径	底径						
1	縄文土器	鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	赤 褐 色	(外)浮線文			小片
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	赤 褐 色	(外)浮線文、L R			小片
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	黄 褐 色	(外)隆帯			小片
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	赤 褐 色	(外)沈線			小片
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	赤 褐 色	(外)浮線文			小片
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	暗 赤 褐 色	(外)沈線、L R			小片
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	暗 赤 褐 色	(外)沈線、L R			小片
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(外)L R			小片
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(外)沈線、R L			小片
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・長石・雲母	暗 茶 褐 色				小片

表3 1号住居址遺物観察表（図12・13）

番号	種類	器形	大 き さ (cm)		胎 土	色調 (内面) (外面)	調 整	釉 薬	特徴	残存率
			器高・口径・底径							
1	土 師 器	皿?	— (12.0) —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
2	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
3	土 師 器	甕	— (15.5) —		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
4	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
5	土 師 器	甕	— (25.0) —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
6	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
7	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	暗 黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
8	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
9	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
10	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
11	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
12	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
13	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	暗 赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
14	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
15	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
16	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
17	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
18	陶 器	?	— — —		白色粒	灰 白 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ	灰		小片
19	土 師 器	皿	2.2 (13.0) 5.5		石英・長石・スコリア	赤 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ヘラ削り (底)回転糸切り			60%
20	土 師 器	皿?	— — 4.0		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ヘラ削り (底)ヘラ削り			小片
21	土 師 器	皿?	— — (10.0)		石英・長石・雲母・角閃石	黄 褐 色	(外)ロクロナデ (底)回転糸切り		内黒	小片
22	陶 器	?	— — —		灰色粒	灰 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ	鉄		小片
23	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
24	土 師 器	?	— — (8.0)		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(外)ヘラ削り (底)ヘラ削り			小片
25	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
26	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	暗 茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
27	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
28	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
29	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
30	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黒 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
31	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黒 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
32	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
33	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
34	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
35	土 師 器	?	— — —		石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ロクロナデ (底)回転糸切り			小片

表4 4号堅穴建物址遺物観察表（図14）

1	土 師 器	?	— — —		石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
2	土 師 器	?	— — —		石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片

表5 B-2 遺物観察表（図15）

1	土 師 器	甕	— — —		石英・長石・雲母	暗 茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
2	土 師 器	?	— — —		石英・長石・雲母・角閃石	黄 褐 色	(外)タテ刷毛目		内黒	小片

表6 C-2 遺物観察表 (図16)

番号	種類	器形	大 き さ (cm) 器高・口径・底径	胎 土	色調(内面) (外面)	調 整	釉 薬	特徴	残存率
1	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片

表7 遺構外遺物観察表 (図17)

1	須 恵 器	壺?	— — —	白石粒	灰 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
2	須 恵 器	?	— — —	白石粒	灰 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ヘラ削リ			小片
3	須 恵 器	?	— — —	白石粒	灰 白 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ヘラ削リ			小片
4	須 恵 器	坏?	— — —	白石粒	灰 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
5	須 恵 器	?	— — —	白石粒	灰 白 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
6	須 恵 器	?	— — —	白石粒	灰 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
7	須 恵 器	?	— — —	白石粒	原 白 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
8	須 恵 器	壺?	— — —	白石粒	灰 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
9	土 師 器	坏	— (10.0) —	砂粒子	黒 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		内黒	小片
10	土 師 器	坏	— (15.0) —	スコリア	明 赤 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
11	土 師 器	皿?	— (13.0) —	スコリア	赤 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
12	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	暗 茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
13	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
14	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	暗 赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
15	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	赤 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
16	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
17	土 師 器	?	— — —	石英・長石・雲母	黄 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
18	土 師 器	?	— — —	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
19	土 師 器	?	— — —	石英・長石・雲母	明 黄 褐 色	(外)櫛描文			小片
20	土 師 器	甕	— — —	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目			小片
21	土 師 器	?	— — —	石英・長石・雲母	茶 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
22	土 師 器	?	— — —	石英・長石・雲母	黒 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ			小片
23	土 師 器	?	— — —	スコリア	明 赤 褐 色	(底)ロクロナデ			小片
24	土 師 器	坏	— — —	石英・長石・雲母	明 黄 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		暗文	小片
25	陶 器	坏	— — —	白色粒	暗 茶 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		鉄	小片
26	陶 器	坏	— — —	白色粒	暗 茶 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		鉄	小片
27	陶 器	山皿	— — (11.0)	白色粒	黄 褐 色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		鉄	小片

表8 遺構外出土石器 (図18)

図番号	器 種	最 大 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	残 存 率	備 考
1	打製石斧	10.2	5.3	2.7	165	ホルンフェルス	100%	揅型
2	石鏃	(1.7)	(1.55)	0.45	(0.8)	黒曜石	90%	有茎凹基

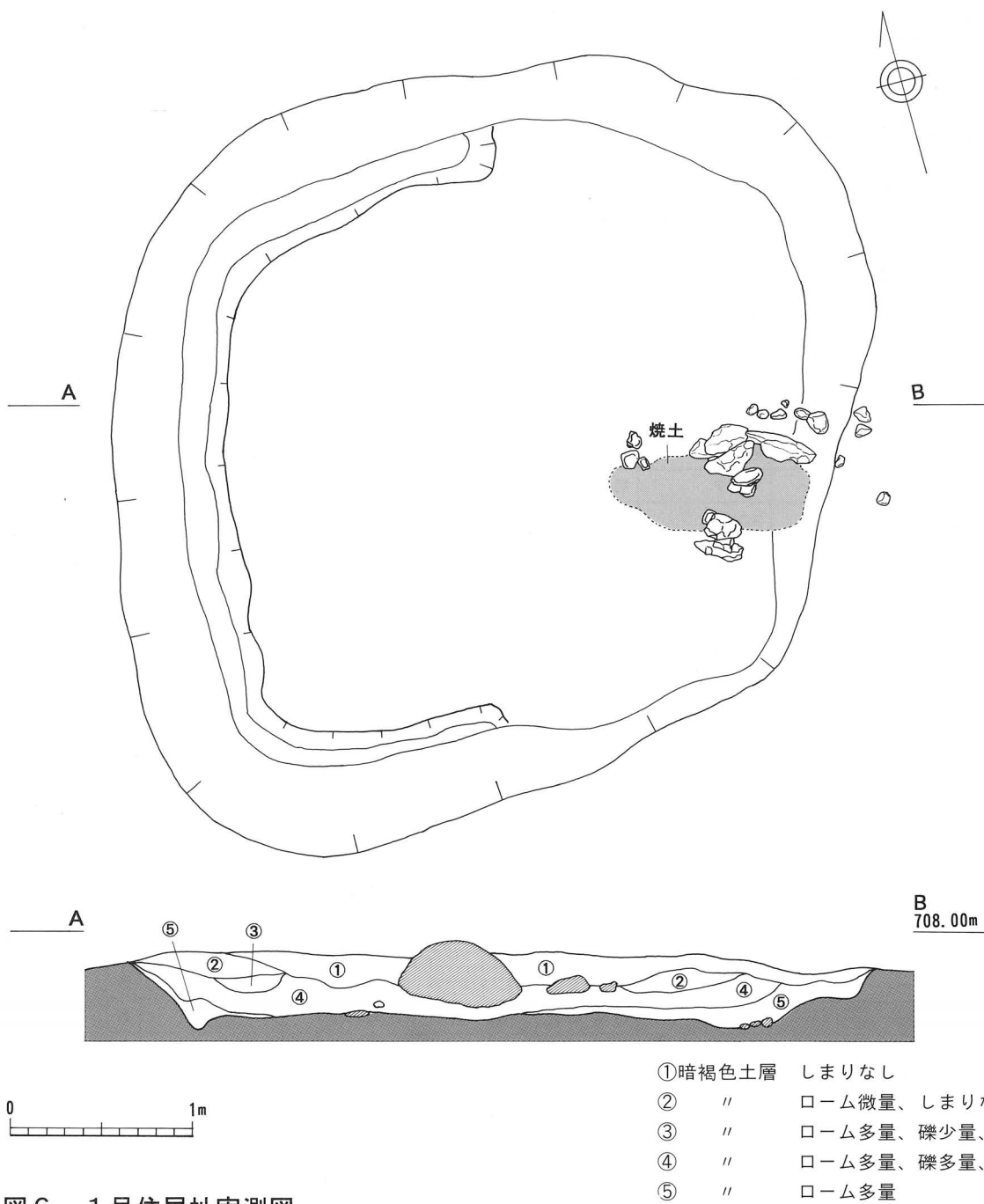
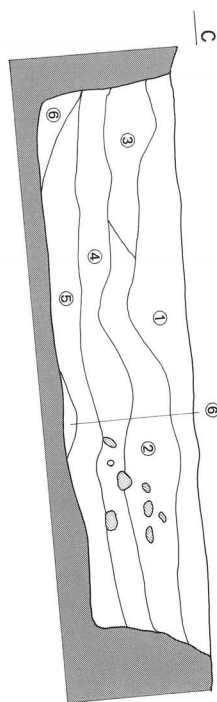


図6 1号住居址実測図



- ①暗黄褐色土層 ローム多量、
ロームブロック多量、
砂ブロック少量、しまりなし
- ②黒褐色土層 ローム少量、拳大礫、
砂ブロック少量
- ③暗黄褐色土層 ローム多量
- ④暗黄褐色土層 5mm位ローム多量、礫少量
- ⑤暗黄褐色土層 砂ブロック少量
- ⑥暗黄褐色土層 ⑤より粒子細かい
- ⑦黄褐色土層 ローム多量
- ⑧暗黒褐色土層
- ⑨褐色土層
- ⑩暗黄褐色土層 ロームブロック多量

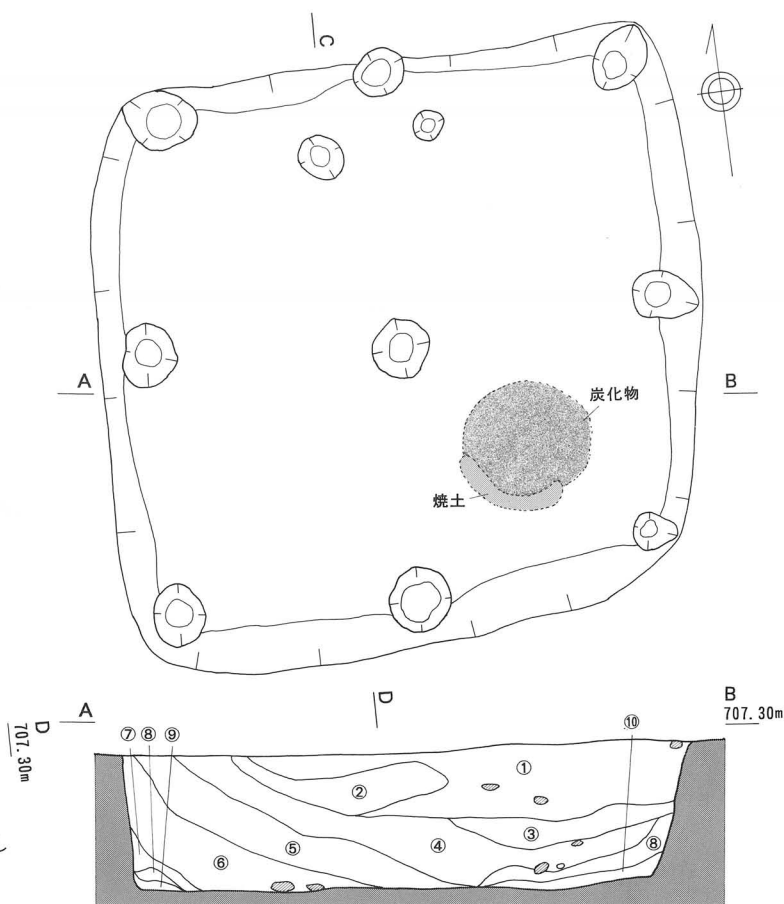


図7 2号竖穴建物址実測図

- ①暗褐色土層 ローム多量、しまりあり
- ②暗黄褐色土層 しまりなし
- ③黄褐色土層 ロームブロック多量、
しまりなし
- ④暗褐色土層 粘土少量、しまりあり
- ⑤暗黄褐色土層 ロームブロック多量、
暗褐色土混入、しまりなし
- ⑥暗黄褐色土層 ローム微量、しまりなし
- ⑦暗黄褐色土層 ローム少量、しまりなし

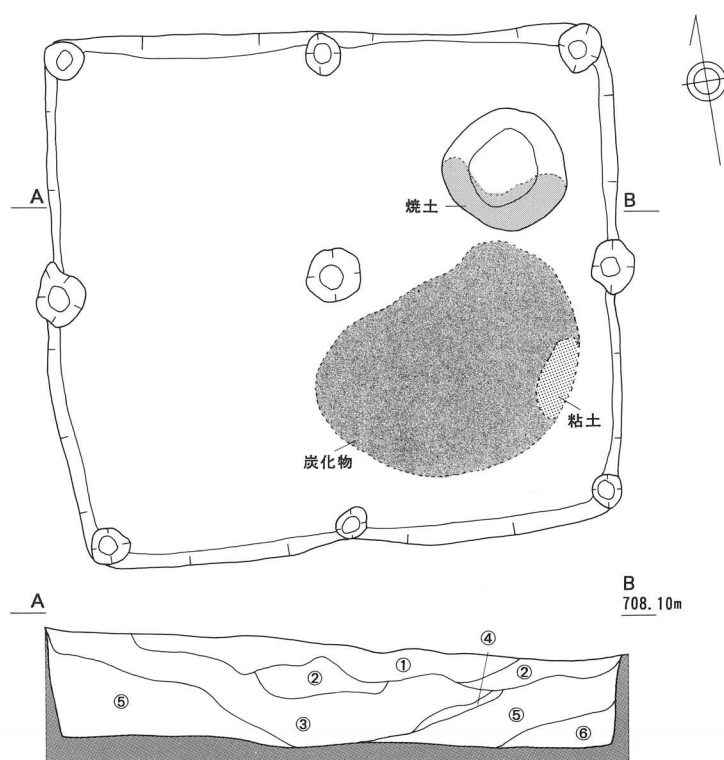


図8 3号竖穴建物址実測図

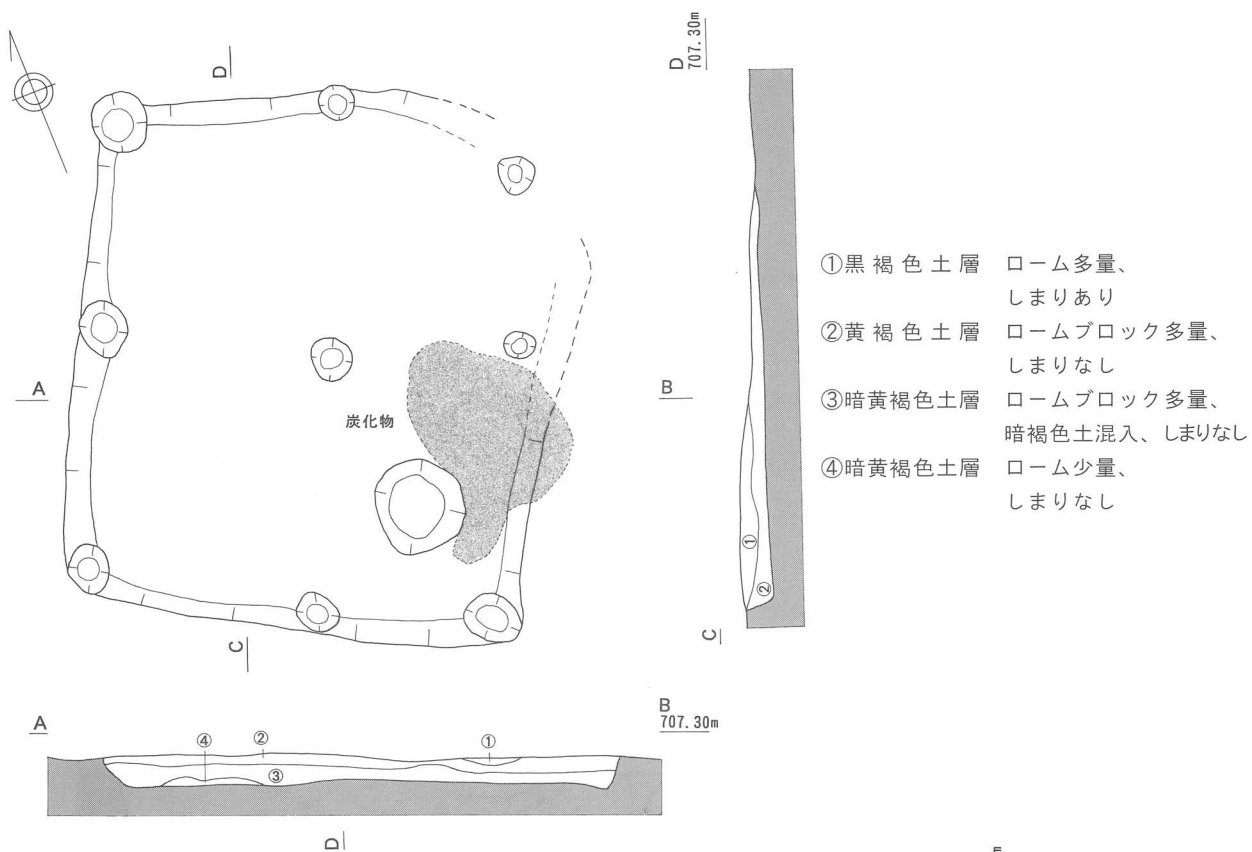


図9 4号竖穴建物址実測図

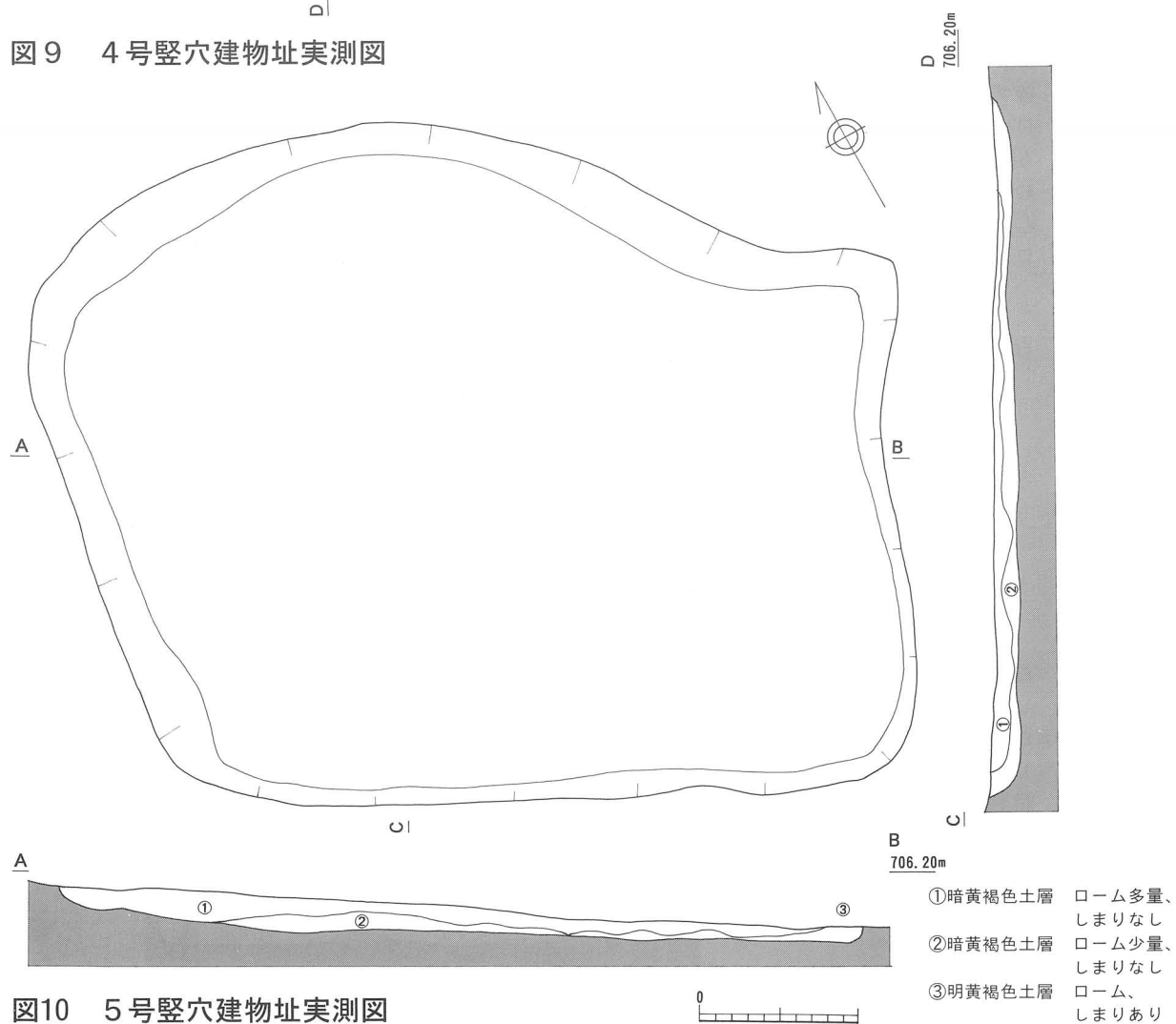


図10 5号竖穴建物址実測図

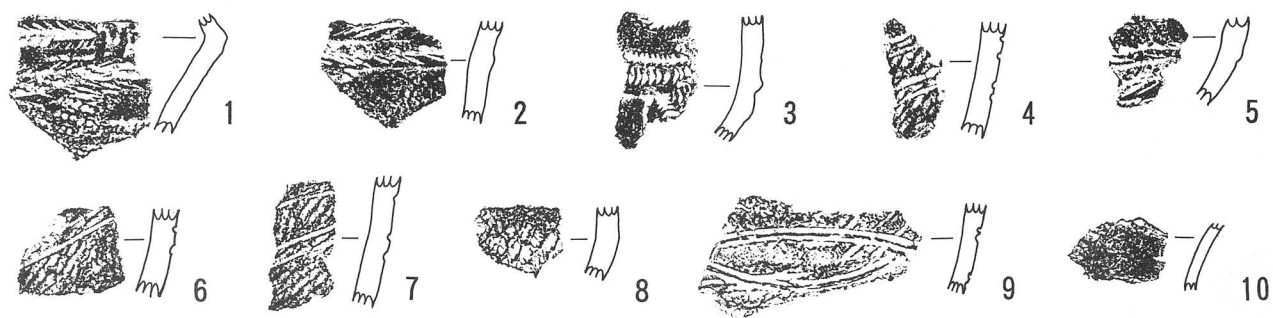
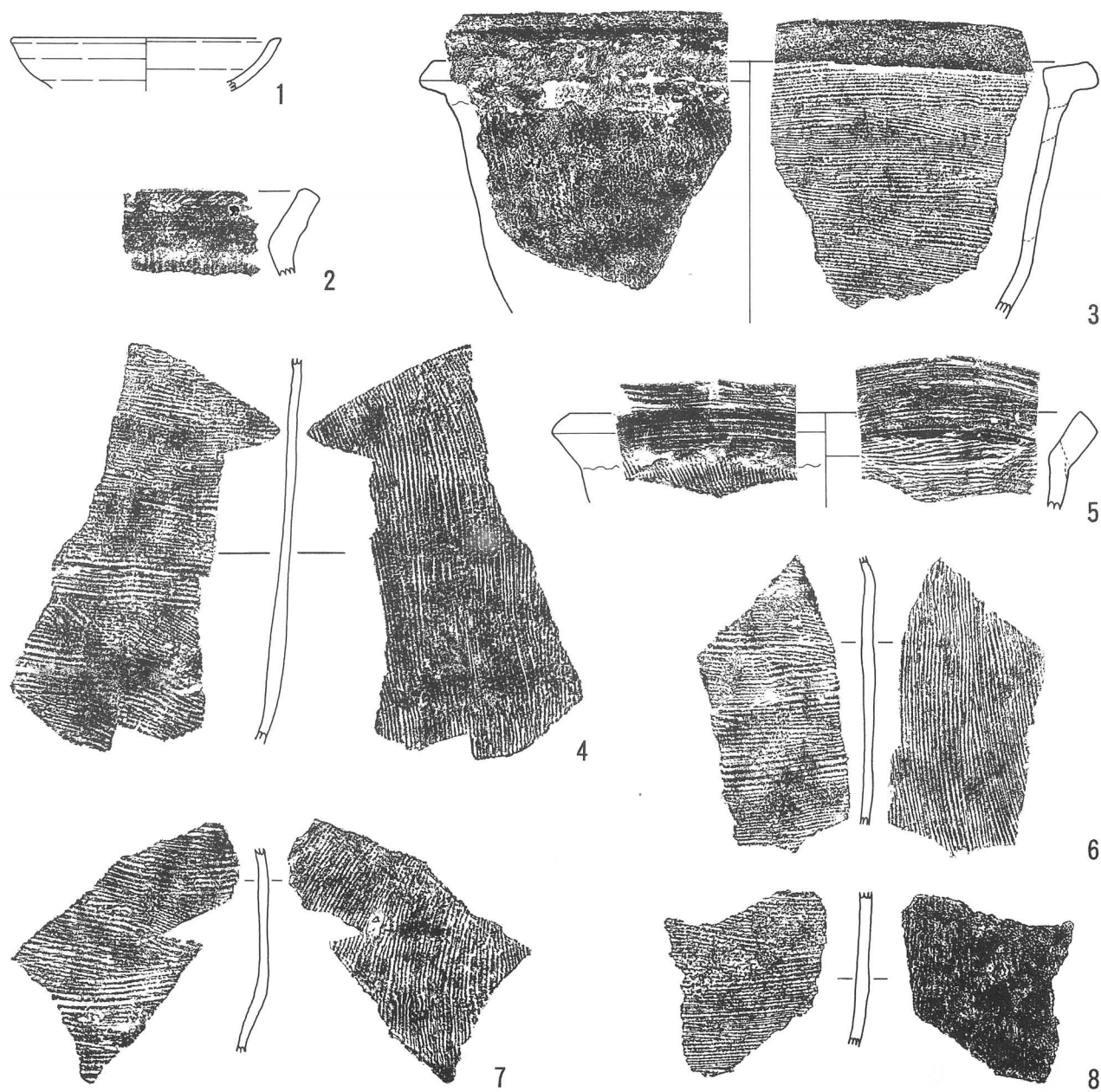
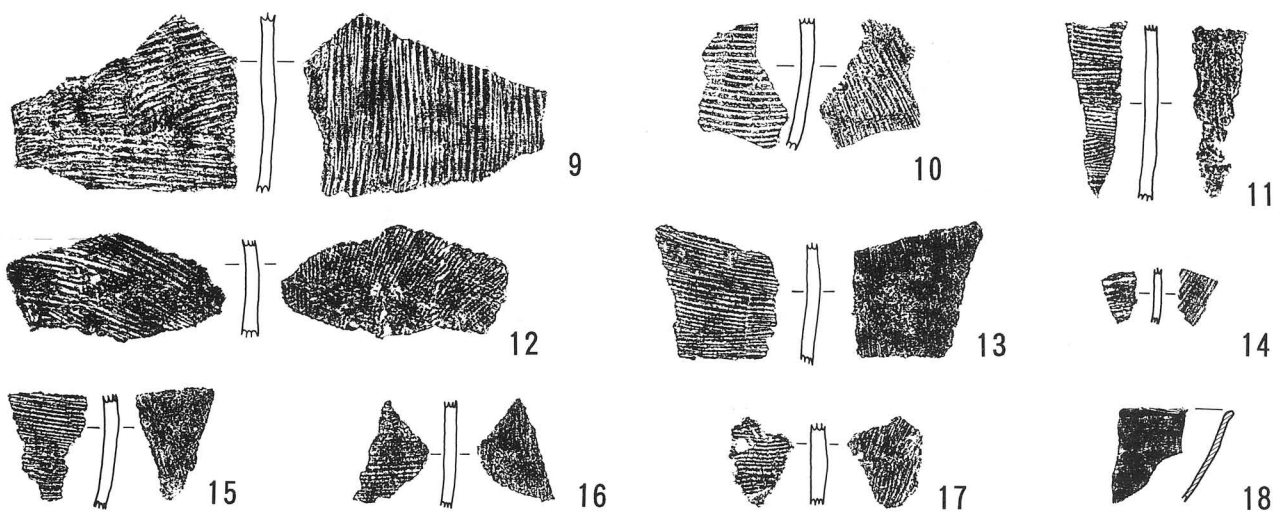


図11 遺構外出土遺物 [1/3]



カマド

図12 1号住居址出土遺物(1) [1/3]



カマド

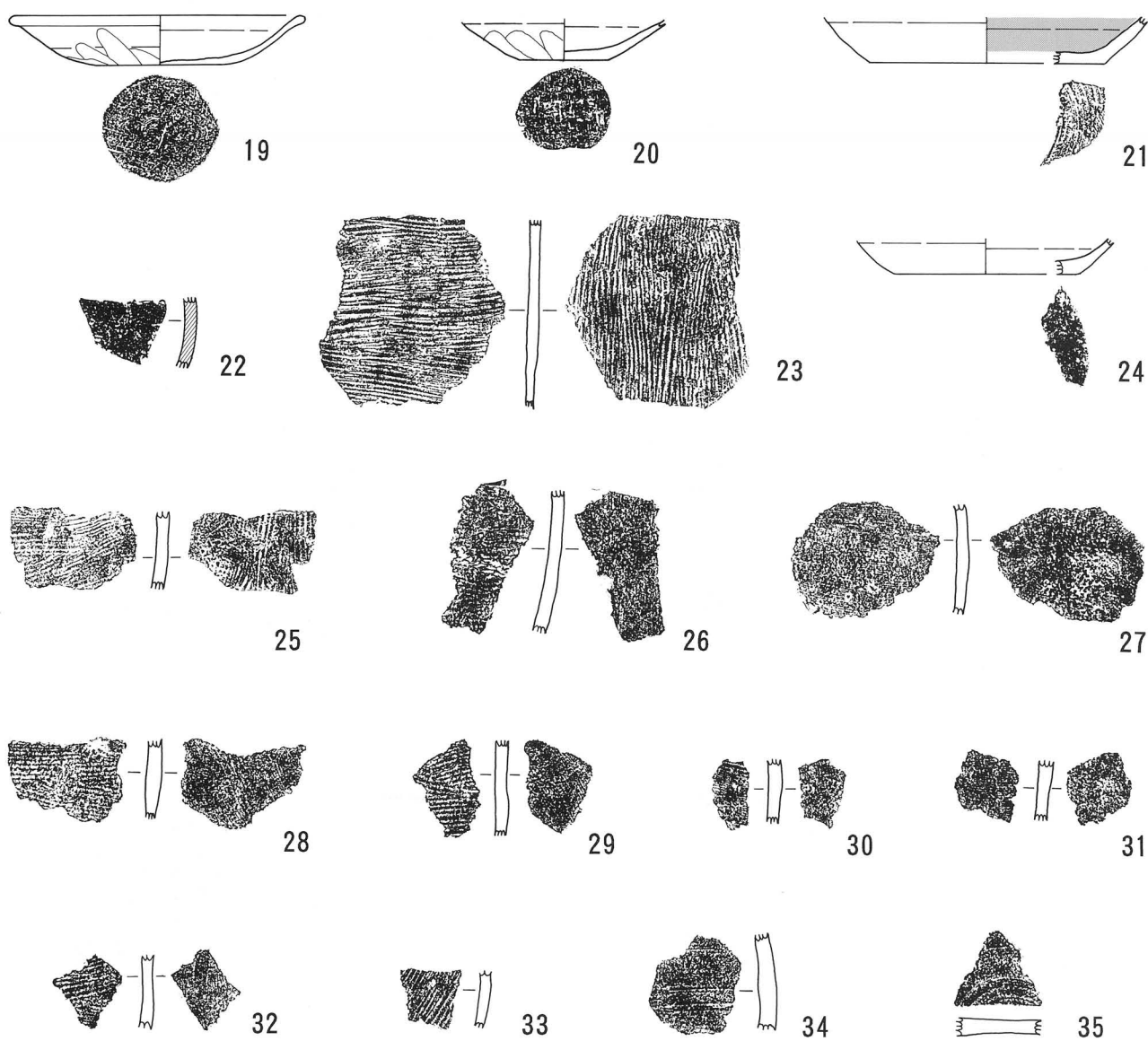


図13 1号住居址出土遺物(2) [1/3]



图14 4号竖穴建物址出土遺物 [1/3]

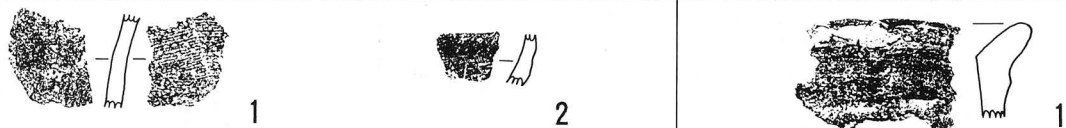


图15 B-2出土遺物 [1/3]

图16 C-2出土遺物 [1/3]

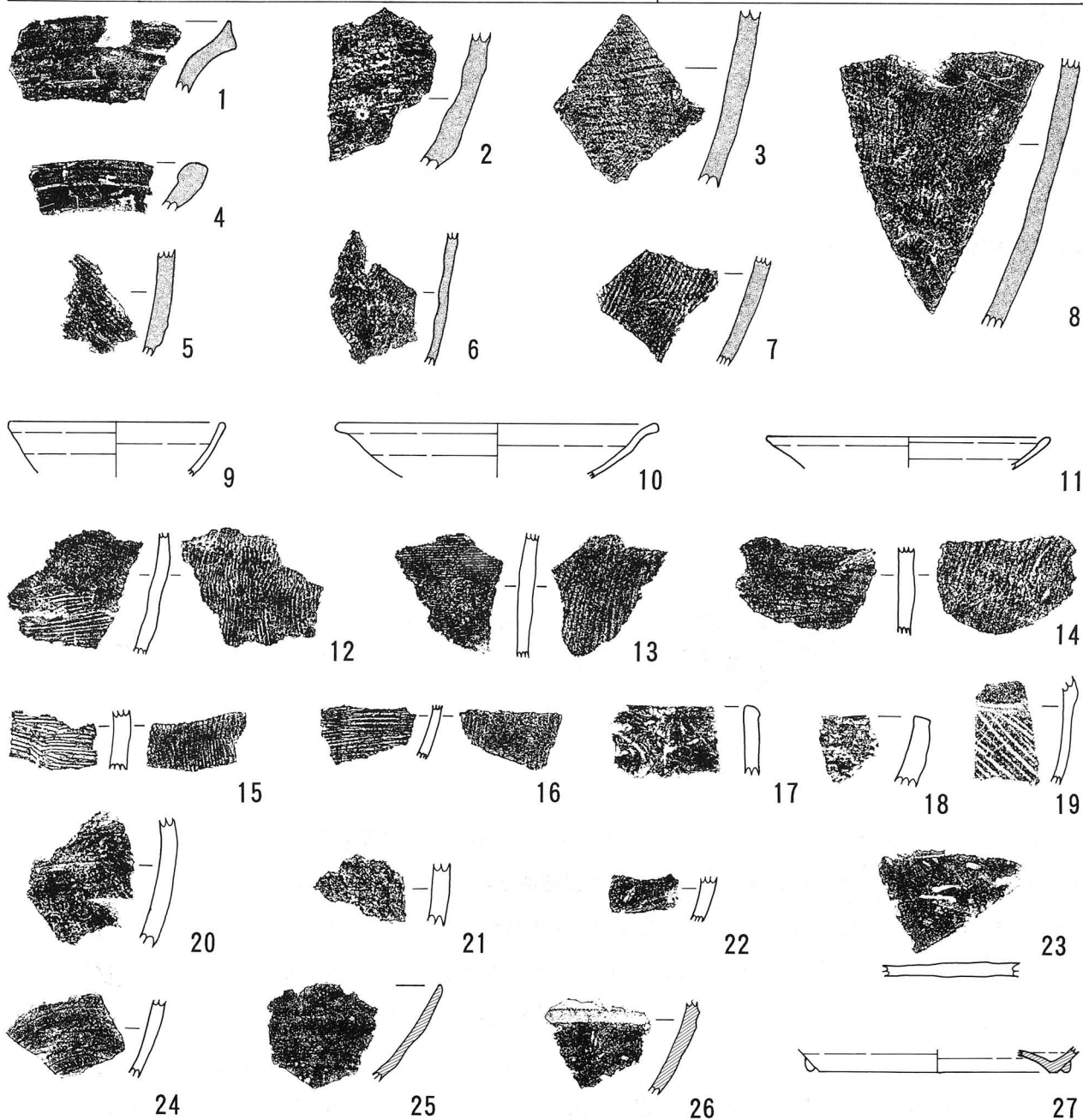


图17 遺構外出土遺物 [1/3]

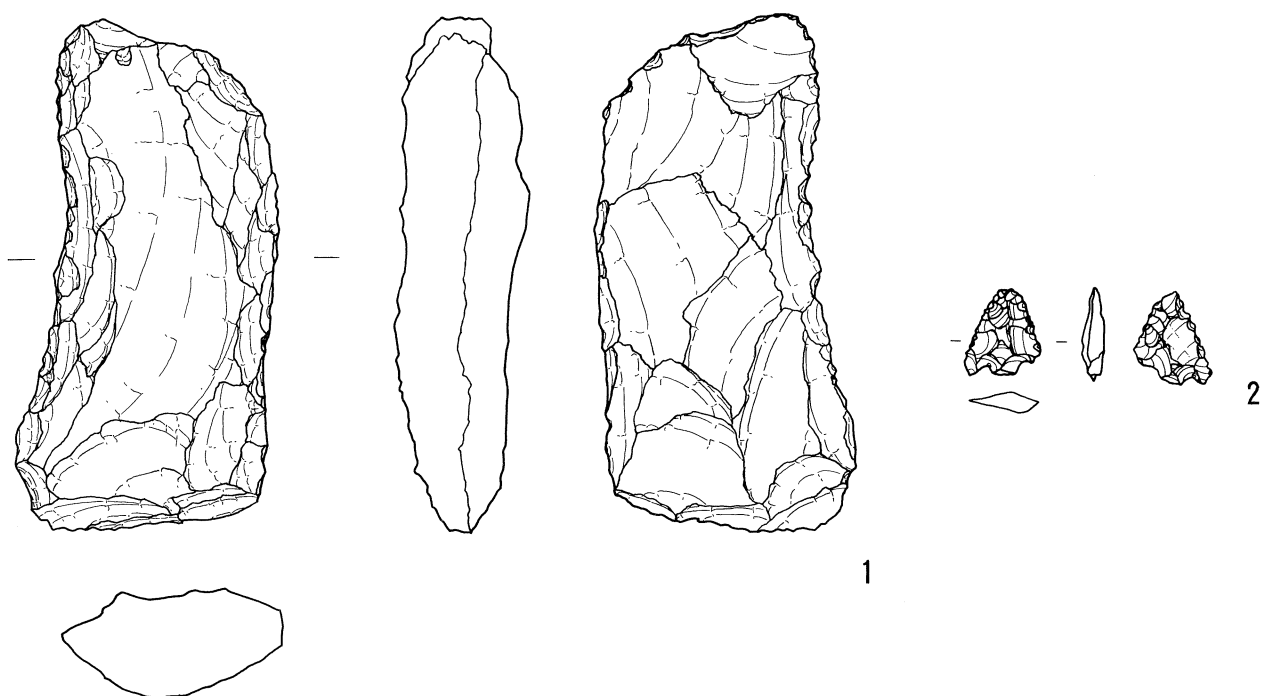


図18 遺構外出土石器

第4章 調査のまとめ

今回の石原田北遺跡の調査は、遺跡の北半を実施したに過ぎず、全体像を考察するには制約が大きい。1998年からは本調査範囲に南接する部分で、本店舗建設とは別に、ホームセンター建設に伴う埋蔵文化財調査が進行中であり、縄文時代前期から平安時代、中世にかけての遺構・遺物が多数出土している¹⁾。このことからしても、本遺跡で報告した平安時代と中世を中心とする遺構群にとどまらないことが想定される。

縄文時代に関しては、当初、中期後半の集落遺跡である北接する柳坪B遺跡²⁾との関わりが予測されたが、前期後半諸磯b式の土器片等がわずかに出土したのみであった。少なくとも柳坪B遺跡の中期後半の集落の範囲が、本調査区まで広がっているという状況は確認できなかった。前期後半については、さらに南側に広がる可能性が高い。

平安時代についても、同じく柳坪B遺跡における集落との関わりが予測されたものの、10世紀後半段階と思われる住居1件の確認にとどまった。

中世では堅穴建物が確認された。これは堅穴遺構とも呼ばれるが、その用途や機能については住居・倉庫・避難小屋などの諸説がある。今回調査した堅穴建物からは土器等の遺物が出土せず、時代決定が困難であるが、近在では長坂町小和田遺跡群³⁾、大泉村金生遺跡⁴⁾などで同様の遺構の報告例がある。とくに小和田遺跡D地区からは31件というまとまった数の堅穴建物が検出され、中世の集落遺跡として注目されている。小和田遺跡の概報ではこれらの遺構は15世紀前後と推定されている。小和田遺跡D地区は概報のため、詳細な遺構の様子が不明であったが、今回の整理作業にあわせ、これら31件の平面図を整理したところ、床面積が概ね4～6㎡の小型（5件）、7～10㎡の中型（17件）、11～14㎡の大型（9件）に分類でき、それぞれで主な属性に以下のような特徴をもつことが判明した（表9）。

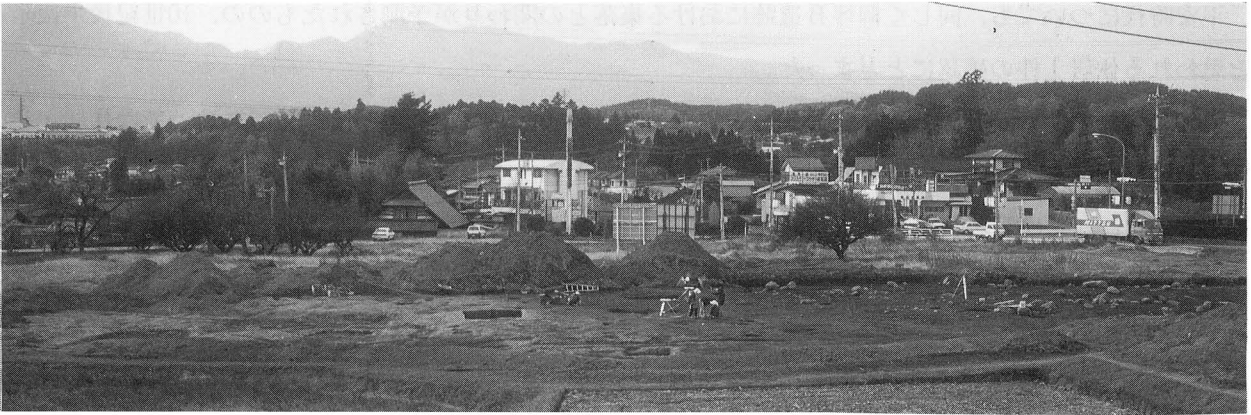
表9 小和田遺跡D地区堅穴建物主要属性表

	貼 り 床	柱 穴	テ ラ ス	プランの張り出し	炭 化 物 集 積
小 型	有 0 ・ 無 5	有 4 ・ 無 1	有 0 ・ 無 5	有 0 ・ 無 5	有 1 ・ 無 4
中 型	有 9 ・ 無 8	有 16 ・ 無 1	有 3 ・ 無 14	有 1 ・ 無 16	有 15 ・ 無 2
大 型	有 6 ・ 無 3	有 9 ・ 無 0	有 2 ・ 無 7	有 2 ・ 無 7	有 9 ・ 無 0

これらの属性の「無」には保存状況等により本来あっても確認できなかったものも含まれる可能性を否定できないが、大まかには大型になるほど属性が多様化する傾向は明らかである。同種の遺構を検討する上での一つの指標となろう。その上で、本遺跡の堅穴建物をみると、3件ともに基本的に9本支柱穴で炭化物の集積が床面にみられるという共通性がある。また床面積は7～9㎡である。このことから、小和田遺跡D地区の中型と比較的共通性が高いことがうかがえよう。また、本遺跡も小和田遺跡D地区も明らかな城館遺構の外部に位置している可能性が高く、その意味で長野県佐久市の大井城跡⁵⁾、金井城⁶⁾で注目された城館内の堅穴建物群との比較を重ねることも必要であろう。大井城や金井城の堅穴建物群は、小和田遺跡D地区や本遺跡のものと比較すると小型のものが圧倒的に多いようである。これらの諸点については、現在小和田遺跡群の整理作業が進行中であり、改めて検討してみたい。

参 考 文 献

- ¹⁾ 調査担当の平野修氏（山梨文化財研究所）のご教示による。
- ²⁾ 山梨県教育委員会1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―北巨摩郡長坂・明野・葺崎地内―』
- ³⁾ 長坂町教育委員会1985『小和田館跡発掘調査概報』
長坂町教育委員会1986『小和田館跡（小和田北遺跡）遺跡』
- ⁴⁾ 山梨県教育委員会1988『金生遺跡Ⅰ（中世編）』
- ⁵⁾ 佐久市教育委員会1986『大井城跡』
- ⁶⁾ 佐久市教育委員会1991『金井城跡』



石原田北遺跡全景



調査風景



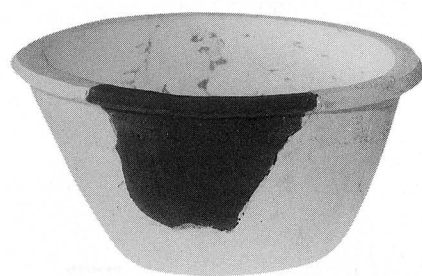
1号住居址



1 号住居址



1 号住居カマド



1 号住居出土土器



2号竖穴建物址



3号竖穴建物址



4 号竖穴建物址



5 号竖穴建物址

報 告 書 概 要

書 名	いしはら たまたい せき 石原田北遺跡	
シ リ ー ズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集	
著 者 名	小宮山 隆	
編 集 ・ 発 行 機 関	石原田北遺跡調査団 長坂町教育委員会	
住 所 ・ 電 話	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL0551-32-2111	
印 刷 所	峡北印刷株式会社	
発 行 日	1999年3月31日	
遺 跡 所 在 地	山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田	
25,000分の1地図名	若神子	
位 置	北緯35度49分45秒 東経138度23分40秒	
標 高	705m	
概 要	主 な 時 代	平安時代・中世
	主 な 遺 構	平安時代住居1件・中世竪穴建物址3件
	主 な 遺 物	縄文時代～中世土器・石器
	調 査 期 間	1996年10月～1998年10月

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集

石原田北遺跡

1999年 3 月25日 印刷

1999年 3 月31日 発行

編集・発行 石原田北遺跡調査団（長坂町教育委員会内）
山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19
TEL 0551-32-2111

印 刷 峡北印刷株式会社
山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313
TEL 0551-32-3245

